

Futaridakeno gekizyo Cezanne 40th Anniversary



Umeyi Linda 梅

井手川泰子 作
「火を産んだ母たち」

明治・大正・昭和と筑豊地方の地の底で明日の生命も分からぬ
苛酷な労働状況の中、石炭を掘り続けた女坑夫達。
極貧の中、身体一つで故郷を離れ熊本・大分・鹿児島・宮崎・
広島・四国から集まつた女達、
彼女らを救つたのは分ち合う心であった。

二人だけの劇場セザンヌ
40周年記念公演

演出・脚色：遠藤 久仁子

2021年12月5日（日曜日） 龍谷大学アバンティ一響都ホール

2022年4～6月 / 10～12月（月末土・日曜日3回公演）
於：セザンヌアトリエ

田島伸二 作 「雪 山」

人間を動物に見立て飢えと飢餓の中、
絶望を乗り越え明日に立ち向う精神を描いた作品
全世界を包み込むコロナ禍の中、
私達に問いかけるものとは・・・



画：カン・ウヒヨン（講談社）

後援：京都新聞社



二人だけの劇場セザンヌ 40周年記念公演にあたって

コロナウイルスによる一年九ヶ月に渡る休演期間を乗り越え、今日ここに二人だけの劇場セザンヌ 40周年記念公演を迎えられます事、関係者一同何よりの喜びと感謝でございます。

長い年月の間、多くの困難に見舞われて来ましたが、多くのみなさんの暖かい励ましにより（その間大切な方々が多く天に召されて逝かれました）今ここに劇団として存続できます事、これは当たり前の事ではなく、多くのみなさんの文化活動に対する暖かい励ましのお心ゆえであると考えております。時に僅かな自分の年金を送金して下さった方、重いお米を遠方より持参していただいた方、ボランティアにて劇団の活動を支えてくださった方、地方公演においてお世話してくださった方等々、生涯忘れることのできない方々ばかりでございます。

それらの方々への心よりの想いをこめて、少しでも良い作品を演じ続けてゆきたい願いのもと今日まで頑張ってこれました。天に召されて逝かれた方々の事を考えると胸が痛みますがきっと天より観劇下さっていることを信じたいと思います。

また永年、お世話になりました照明家 片浦正和氏、美術家 田中一樹氏、今回又これから劇団音楽を担当してくださいます、作曲家 豊千氏、私の補佐を長年勤めてくれました遠藤博圭、劇団の皆に心より感謝します。

また今回の記念公演作品は、5年の歳月を重ね相談、改訂を快く引き受けさせてくださいました「火を産んだ母たち」作者、聞き書き作家井手川泰子女史、「雪山」は寓話作家田島伸二氏の数ある作品の中から選ばせていただきました。この2作品公演を通して先人のご苦労あっての現代日本社会の繁栄について、又コロナ禍にあって私どもはどう未来を切り開いていけば良いのか？等々皆さんと共に考える機会となります事を祈念いたしております。

本日のご来場関係者一同心より深くお礼申し上げます。

遠藤 久仁子



菜の花の女たち

聞き書き作家 井手川泰子
(2021年11月 西日本文化賞受賞)

筑豊の春。その昔石炭を運ぶ川舟が行き交っていた母なる川。遠賀川の広い川原は、群れ咲く菜の花の黄一色に染められる。

一つずつは小さな花なのに、それはなんと力強く、美しく、一面の菜の花の生命力に圧倒されながら。いつの頃からかこの花群にヤマの女抗夫たちを重ねて見るようになった。

炭坑は終わっても、戦争の時代を出炭兵士として、朝鮮人徵用工と一緒に命がけで働いた女たちの話も、残さず聞いておきたい。

女抗夫としての胸の内は、時代の歴史であり、証言でもあると思う。

これまで出会ってきた老女たちは80人近くいるけれど、今はもう誰一人いなくなった。

遠賀川原の菜の花も今は探し歩くほど少なくなっている。地底の労働から地上に出て菜の花に咲く死者たちは、あの川原の花群の中で同窓会を開いているはずだけれど……。

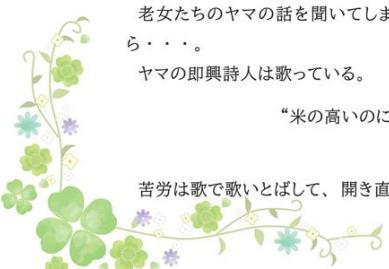
懐かしいあの顔、あの声を私は忘れない。

老女たちのヤマの話を聞いてしまったという責任がある。もう二度と聞けない話を聞いてしまったのだから・・・。

ヤマの即興詩人は歌っている。

“米の高いのに双子ができる
お米お高と名をつけた、(バリバリ節)”

苦勞は歌で歌いとばして、開き直り 助けあって共に生きる炭住の暮らしを学びたい。



「雪山」と寓話

寓話作家 田島伸二

この物語をいつ頃、なぜ書き上げたのか、よくわかりません。ただその頃の私自身は八方塞がりの人生の中に生きていたのは確かなようです。なぜなら「雪の降り続いている」という私自身の人生の雪山には、春の気配は全くなく、どうやって「自分の未来」を探したらいいのか、全くわからない時期が長く続いていたからです。そこで私は物語を書くのを止めて、「…………冷たい雪に閉ざされた 雪山に、今も果てしなく雪が降り続いている。そうです。雪山のダン吉は、今もほら穴のなかでただ思い悩んでいるのです。」と ダンキチがただ一人、人生で悩み苦しむまま物語を完結させようと思ったとき、私はある病院の玄関先にいたことを憶えているのです。そして 突然、「そうだ。これではいけない。やはり人生や世界には希望が必要だ。子どもたちには夢が必要。絶望的な結果で物語を完結させてはいけない！」と思ったとき、このような言葉が浮かんできたのです。「…………おかあちゃん、ぼく行くよ。この雪山を下りて、春を迎えにいく。こんなに春を待っても待っても春が来てくれないのなら、ぼく行くよ。この雪山を下りて、春を迎えにいく。」と春に会いたいと飛び出していく子猿たち、そしてその後を追い始めたお母さん猿たち…………そうですね。この時代の寓話とは「心の底から生きようとする子どもたちを、思い切り励ます必要があるのです。あらゆる想像力を駆使して、雪山へと元気に飛び出せる勇気を持った子どもたちに！」

----------*-----*-----*-----*-----*-----*
氏の作品「コンキチ」は2001年第1回ベルリン国際文学祭招致作品。
「大亀ガウディの海」他作品は28ヶ国語に訳され世界の子供達に愛読されている
----------*-----*-----*-----*

40周年記念公演に当たって

作曲家 豊干

大和の国には夢の淵があり、夢の浮橋が架かっていました。我々の存在は夢の中で夢を見ているのでしょうか。この夢は時々、凍結を起こし、空蟬の現世が現れてしまします。この接点が原始社会ではまつり事の儀式であり、古代ではギリシャ悲劇などの演劇でした。古代劇は歌舞ものでした。ギリシャ悲劇はコーラスが進行役でしたから古代ギリシャの劇場の舞台をコーラスと言いました。音楽芸術が他の藝術と違うところは遅く花開いたことです。天上の歡喜から地獄の法悦までを描き尽くし、天をも鬼神をも驚かすようになったのはルネッサンス以降でしょう。ルネッサンス時代にギリシャの人間的な藝術の復興としてギリシャ悲劇の再現が試みられ、歌劇の歴史が始まりました。この伝統はヨーロッパで花開きました。ウィーンは百八十万人の町ですが、三つの国立劇場、二つの国立歌劇場があります。ウィーン国立歌劇場の予算はオーストリア共和国の外務省予算を超えます。数万人の規模の町で町立劇場や町立オーケストラを持っており、数百人の芸術家が公務員として生きています。日本はこのような國の保護は無く、個人の努力で支えられていますが、遠藤久仁子さんの努力には心からの敬意を贈ります。日本では文化はないがしろにされ、取り柄の経済でも失敗し特徴の無い國になりましたが、過去には立派な文化と歴史のあった國です。今は大変な頃なのですが、コロナに負けず蘇ることを期待します。そして今日は舞台の上で凍結が解除し、夢の世界が咲くことを待ちます。

頓首

----------*-----*-----*-----*-----*-----*
音楽の都オーストリアウィーンに30年在住の作曲詳細は
Facebook (フェースブック) ; 宮原豊及び当ホームページ案内にて紹介
宮原豊 ウィキペディア : Wikipedia にて掲載
----------*-----*-----*-----*-----*



「雪山」と寓話

寓話作家 田島伸二

この物語をいつ頃、なぜ書き上げたのか、よくわかりません。ただその頃の私自身は八方塞がりの人生の中に生きていたのは確かなようです。なぜなら「雪の降り続けている」という私自身の人生の雪山には、春の気配は全くなく、どうやって「自分の未来」を探したらいいのか、全くわからない時期が長く続いていたからです。そこで私は物語を書くのを止めて、「…………冷たい雪に閉ざされた 雪山に、今も果てしなく雪が降り続いている。そうです。雪山のダン吉は、今もほら穴のなかでただ思い悩んでいるのです。」と ダンキチがただ一人、人生で悩み苦しむまま物語を完結させようと思ったとき、私はある病院の玄関先にいたことを憶えているのです。そして 突然、「そうだ。これではいけない。やはり人生や世界には希望が必要だ。子どもたちには夢が必要。絶望的な結果で物語を完結させてはいけない！」と思ったとき、このような言葉が浮かんできたのです。「…………おかあちゃん、ぼく行くよ。この雪山を下りて、春を迎えにいく。こんなに春を待っても待っても春が来てくれないのなら、ぼく行くよ。この雪山を下りて、春を迎えにいく。」と春に会いたいと飛び出していく子猿たち、そしてその後を追い始めたお母さん猿たち…………そうですね。この時代の寓話とは「心の底から生きようとする子どもたちを、思い切り励ます必要があるのです。あらゆる想像力を駆使して、雪山へと元気に飛び出せる勇気を持った子どもたちに！」

----------*-----*-----*-----*-----*-----*
氏の作品「コンキチ」は2001年第1回ベルリン国際文学祭招致作品。
「大亀ガウディの海」他作品は28ヶ国語に訳され世界の子供達に愛読されている
----------*-----*-----*-----*

40周年記念公演に当たって

作曲家 豊干

大和の国には夢の淵があり、夢の浮橋が架かっていました。我々の存在は夢の中で夢を見ているのでしょうか。この夢は時々、凍結を起こし、空蟬の現世が現れてしまします。この接点が原始社会ではまつり事の儀式であり、古代ではギリシャ悲劇などの演劇でした。古代劇は歌舞ものでした。ギリシャ悲劇はコーラスが進行役でしたから古代ギリシャの劇場の舞台をコーラスと言いました。音楽芸術が他の藝術と違うところは遅く花開いたことです。天上の歡喜から地獄の法悦までを描き尽くし、天をも鬼神をも驚かすようになったのはルネッサンス以降でしょう。ルネッサンス時代にギリシャの人間的な藝術の復興としてギリシャ悲劇の再現が試みられ、歌劇の歴史が始まりました。この伝統はヨーロッパで花開きました。ウィーンは百八十万人の町ですが、三つの国立劇場、二つの国立歌劇場があります。ウィーン国立歌劇場の予算はオーストリア共和国の外務省予算を超えます。数万人の規模の町で町立劇場や町立オーケストラを持っており、数百人の芸術家が公務員として生きてています。日本はこのような國の保護は無く、個人の努力で支えられていますが、遠藤久仁子さんの努力には心からの敬意を贈ります。日本では文化はないがしろにされ、取り柄の経済でも失敗し特徴の無い國になりましたが、過去には立派な文化と歴史のあった國です。今は大変な頃なのですが、コロナに負けず蘇ることを期待します。そして今日は舞台の上で凍結が解除し、夢の世界が咲くことを待ちます。

頓首

----------*-----*-----*-----*-----*-----*
音楽の都オーストリアウィーンに30年在住の作曲詳細は
Facebook (フェースブック) ; 宮原豊及び当ホームページ案内にて紹介
宮原豊 ウィキペディア : Wikipedia にて掲載
----------*-----*-----*-----*-----*





「フェイド」

照明家 片浦正和

10月から5月までの暑くない季節は湖南アルプスを歩いている。未明、路は暗く木々は色を見せず山の稜線は輪郭だけがぼんやりとしている。やがてそれらは黒からそれが持つ色へと変化していき姿を現す。霧が出ているときは光そのものを見ることができ幻想的だ。冬に踏みしめる新雪は太陽のスペクトラムすべてを反射して白が鮮やかだ。

人工の光を使って舞台を見せる時には、山歩き途中の景色の変化、特に未明から明け方そして夕暮れから夜に至る時間の流れをデザインの基とするようにしている。一瞬で点いたり消えたりする照明は刺激的だが、照明デザインの要はフェイドにある。時間の流れや情景の移ろいといったものを、光の力を借りつつ光そのものは見せることなしに舞台を見せる、そんな照明家でありたいと思っている。

* * * * *
アートステージプロ所属後、びわ湖ホール建設
グループの一員として参加。
バレエ・演劇・舞踊等、幅広く照明活動
* * * * *



原風景は「筑豊鞍手の炭坑町」

カキナーレ塾長 深谷純一

人には、信念とか思想がある。そして、それを根底で支えているのが、人それぞれが抱え込んでいる「原風景」といえようか。

それでは遠藤さんの原風景とは。長らく気になっていたが、ひょんなことから、知ることができた。それは遠藤さんのふる里「筑豊鞍手の炭坑町」だった。(『隨想文「私のふる里』・20年「人権と部落問題」所収)。遠藤さんの父親は、炭坑夫ではなかったが、家族は炭坑と地続きの家に住み炭坑夫たちの暮らしを見てきた。そんな町での生活で培われてきたもの。それは、社会の底辺で生きる彼らこそ、現代の日本を支えてきた歴史の主役である、という信念であった。

今回の公演作品「火を産んだ母たち」の作者・井手川泰子氏は、遠藤さんと同郷の作家である。作品の主人公は炭坑夫、それも女炭坑夫である。日本の近代を支えたものは、野麦峠を超えて行った紡績工女たちが有名だが、筑豊炭坑で働いていた女炭坑夫たちも又大きな役割を果たしていたのである。そうした女たちが生きていた土地を「原風景に」持つ遠藤さん。

「女炭坑夫だったおばあちゃんたちは、私に困難に立ち向かう精神を教えてくれた大切なひとたちである」という。

セザンヌ40周年オーブニング記念公演を飾るに最高の作品であり、50周年に向けての第一歩のものといえる。又劇団員の方々の田島伸二作「雪山」も楽しみである。

公演が待ち遠しい。



「雪 山」

「ゆきやま」より抜粋 画；カン・ウーヒヨン（講談社）



「火を産んだ母たち」「雪山」参考資料

「火を産んだ母たち」

「写真万葉録 筑豊」より

「人は一人のために」



筑豊文庫創立記念集会の上野英信



井上為次郎 絵
炭坑労働者自らの筆で炭坑の歴史を
表現した最初の人物

出演者紹介 及び主な公演作品



遠藤久仁子

俳優・演出・脚本
二人だけの劇場セザンヌ主宰
日本演出家協会会員
2008年モナコ国際映画祭にてベストニューカマ賞受賞
1990年より演劇・朗読教室開設
代表作
モリエール作「町人貴族」
チエーホフ作「プロポーズ」
上野英信作「ひとくわぼり」
真田正子作「花の氷柱」
芥川龍之介作「蜘蛛の糸」
太宰治作「葉桜と魔笛」
どうてらお作「ユル族のふたり」
脚本「その瞳の奥に輝く生命の奇跡」、他



塩見順一
宮沢賢治作「祭りの晩」
中島敦作「山月記」、他



矢木雅人
大森基司作「サナギを売っている店」
木下順二作「彦市ばなし」、他



アンディ菅野
斎藤隆介作「ペロ出しチョンマ」
オーヘンリー作「賢者の贈り物」、他



大西甫美
斎藤隆介作「天狗笑い」
花岡大学作「星月夜」、他



新井安子
有島武郎作「一房の葡萄」
花岡大学作「左の手」、他



新納絹子
峰三吉詩「原爆詩集」より
宮沢賢治作「銀河鉄道の夜」、他

出演者紹介及び主な公演作品



西田梓

「その瞳の奥に輝く生命の奇跡」
河原 - 役
有島武郎作「一房の葡萄」、他



アニー

サンテグジュペリ作「星の王子さま」
太宰治作「待つ」、他

休演



溝江拓斗

木下順二作「彦市ばなし」
オーヘンリー作「改心」、他



田中薰

宮沢賢治作「よだかの星」
太宰治作「待つ」、他

友情出演

(炭坑夫・踊り・唄)



山本道子



ハ尋きよ子



井坂洋子

◆◆◆ STAFF ◆◆◆

音楽；豊干 照明；片浦正和 美術；田中一樹

演出補；遠藤博圭 舞台監督；隅谷和哉 受付；坪山正文

協力；大西和彦・中武題・難波永次・田中薰

Special thanks；撮影 原将人 監督・萩音楽協会

YouTube チャンネルにて 二人だけの劇場セザンヌ 公演及び公演案内を配信いたしております

・二人だけの劇場セザンヌ URL <http://www.cezanne1983.com/>

・YouTube チャンネル；遠藤博圭

<https://www.youtube.com/channel/UCQ9ianqMksfSXs0N9evLBKA>

まで

「セザンヌの道」

元京都新聞論説委員 井上理砂子

セザンヌは、一滴の水だ。

東九条の本屋の2階。小説や詩集が並ぶ稽古場に暗幕が張られ、そこが小さな劇場になる。あるいは、円山公園の桜の下。そこが舞台も客席もない劇場になる。

それは何とささやかで、控え目なことだろう。しかし、ふと足を止めた人々に、セザンヌは種をまく。強い陽光に水たまりがなくなるように、いっときは姿が見えなくなってしまっても、雨となり再び大地に降る。人々の乾きを癒す、それは一滴の水のようだ。

セザンヌは、ひと筋の光だ。

遠藤久仁子さんら俳優たちが紡ぐのは、人から人へと語り継ぐべき物語だ。幸せになるために生まれてきた人々の苦境に寄り添う。人生の一瞬のきらめきを刻印する。国境も性別も超えて分かち合える共感の物語を、セザンヌは常に演目に選んでこられた。

観るたびに、心打たれる。それが過酷な物語であっても、帰り道には不思議な幸福感に包まれる。私たちの人生を励ましてくれる劇団でもあるのだと実感する。

夜を照らし、心に灯をともす、それはひと筋の光のようだ。

セザンヌは、一本の道だ。

長い道程は平坦ではなかった。劇団員の病や急逝など、志を試すように過酷だった。まるで十字架の道行だ。それでも、セザンヌは折れない。倒れない。その姿が俳優の卵たちを引き寄せる。研究生が次々と舞台に立つ。遠藤さんや浜崎さんの託すバトンは、しっかりと次代へと手渡されている。素晴らしいことだと思う。

35年間、一つ一つの舞台をありがとうございました。そして、これから日々を心から応援しています。

セザンヌは果てなく続く一本の道。その道はたくさんの人々の人生に続いている。

35周年記念パンフレットより

二人だけの劇場 セザンヌ

セザンヌアトリエ；〒601-8017 京都府京都市南区東九条北烏丸町33番地 BOOKS ENDO 2F

Tel；075-205-1733 / 090-3865-0533

事務所；〒601-8014 京都府京都市南区東九条河西町43

Tel/Fax；075-672-3426

mail;cezanne1983@leto.eonet.ne.jp / cezanne1983@ybb.ne.jp

http://www.cezanne1983.com/

劇団員募集

「演劇の使命は人間の精神を描くことである。シラー」

を基本に虚構を使って真実を見つめて行く作業の中で、自由に語り合い共感の精神をやしない、心の煙突掃除および心の解放の中で広く人間理解を目指し、客席の皆さんと共に時に涙を流し、怒り、笑える事を願う人を募集します。

15才～、入団希望の方はセザンヌアトリエへお電話、又はメールにてご連絡ください。